

令和4年度 第4回 積志中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月27日（月）15時15分から16時45分まで
- 2 開催場所 積志中学校 会議室
- 3 出席委員 今宿 康一、上野 由紀夫、三輪 清、岡本 知之、林 和法、北 一樹、高橋 美香
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 中村 佐佳恵（主任児童委員）
- 6 学 校 森田 忠（校長）、永田 行央（教頭）、古橋 宏直（主幹教諭）、岩永 和也（教諭、生徒指導主事）、高林 昭寿（教諭、CS担当）、北寒寺 知子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 小川 誠司（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - （1）学校関係者評価
 - （2）来年度の学校運営の基本方針について
 - （3）来年度の学校運営協議会の取組について
 - （4）今年度の学校運営協議会の自己評価
 - （5）その他
- 10 会議録作成者 CSディレクター 北寒寺 知子

11 会議記録

司会から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達するため、会議が成立している旨の報告があった。会議開始の5分後に、三輪委員が会議に参加し、それ以降については委員7名で会議が行われた。

（1）議長の選出について

議長については、第1回目の会議で、本年度は年間を通して岡本委員に務めていただくことが決定していたため、岡本委員に進行をお願いした。

（2）学校関係者評価

議長の指示により、古橋教諭から今年度の学校評価アンケートの結果、分析結果、改善方策等について説明があり、それに対して委員からは以下の発言があった。

・評価の項目の、「私は、321を意識するなど授業態度向上を目指している。」とあるが、この321は何か？（林委員）

→321とは、授業前の3分前教室入室、2分前着席、1分前黙想のことを指している。多くの生徒が意識して行動できているので、落ち着いた雰囲気の中で授業を始めることができている。学校全体で授業を受けるためのルールが定着していると評価している。（古橋教諭）

- ・生徒のアンケート結果の中で「地域の活動に参加した」という項目の数値が低い、感染症の影響もあり、近年、地域の活動自体が少ないことも一因だと思う。また、地域としても学校と連携したり、中学生に対して参加を呼び掛けたりしていく必要があると考えている。(今宿委員)
- ・SNSについて、アンケート結果から子供の感覚と保護者の感覚が少しずれていることがわかる。中学生にも、その保護者にもSNSの使い方を含めた情報モラルに関する啓発活動を継続的に行っていけると良い。(岡本委員)
- ・アンケート結果の数値を見ると、生徒と比べて保護者の評価がどの項目も10ポイント程度厳しいと感じた。生徒が学校の様子を家庭の中で話したり、学校公開日、学校行事などで保護者が学校に来る回数が増えたりすると、生徒の様子や学校の取組がわかり、評価の数値も変わるのではないかと。(上野委員)
- ・子供に、ゲーム、SNSについて約束をしても、最初は守っているが、徐々に守れなくなり、ルールがルールでなくなってきたのが現実である。親として、声を掛けていくのも疲れてしまうときもある。(高橋委員)
- ・学校と家庭と地域をうまく結び付けられたらよい。(岡本委員)

以上のような委員の発言を受け、学校からは、それらを踏まえた改善方策を再度検討し、次年度の教育活動、学校運営をよりよいものとしていきたいという旨の回答があった。

(3) 来年度の学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から来年度の学校運営の基本方針について説明があり、それに対して委員からは以下の発言があった。

- ・積志中の生徒たちの多くが道ですれ違った際は「こんにちは」と明るく挨拶してくれる。地域住民として、積志中の生徒は挨拶が自然とできるところが素晴らしいと感じている。生徒が自分たちの良さを自ら理解し、認めるようになれば、さらにレベルアップできるのではないかと。また、校長の掲げる学校スローガンについては、令和2年度のものから令和5年度のものまでのつながりがあり、積志中がどのような流れで教育活動を積み重ねてきたのかがよくわかる。そのことを全校生徒に浸透させることができるように、スローガンの変遷をまとめた掲示物を作成するなどといった手立てを考えてみてはどうだろうか。(岡本委員)
- ・「ICT教育について積志中はどのような取組をしようと考えているのか」「部活動についての今後の方向性をどのように考えているのか」について知りたいという声を耳にすることがある。完全なものでもなく、今後の見通しがあれば教えていただきたい。それがわかれば、保護者も安心するのではないかと。(北委員)
- ・今後の部活動について、地域移行した際には、競技間の格差や各家庭の経済的な格差など、新たな問題が生まれてくるのが予想される。浜松市は学校数も多く、それぞれ実態が異なるので、行政として統一した取組をしていくのが難しい市町村ではないかと思う。今後のことを考え、実際に地域に部活動の指導ができる人材がいるのかどうかの調査をしたい。時間や報酬の問題もあると思うが、先生の負担を少しでも軽減できるようになると良い。(岡本委員)

→委員から出た意見を基に改善策を学校運営の基本方針に組み入れ、よりよい教育活動の実現を目指していきたい。(校長)

協議の結果、全員異議なく、これを承認した。

(4) 来年度の学校運営協議会の取組について

岡本委員から、来年度の学校運営協議会の取組について以下のような説明があり、次年度の学校運営協議会での熟議を重ねていく中で具体化を図っていきたいという話があった。

- ・次年度は、主に「①学習支援」「②部活動を指導できる人材の発掘」「③学校行事への支援」「④地域のボランティア活動の活性化」という4点について取り組んでいきたい。
- ①学校の長期休業中での実施を考えている。地域住民だけでなく、学区内にある高等学校、大学の生徒にも呼び掛けてボランティアを募りたい。
- ②回覧板、掲示板などを使って地域に呼び掛けたい。しかし、希望する人すべてを受け入れるわ

けではなく、指導の適性を見るために面接をする必要があると考えている。

③体育大会のソーラン節で使用する法被の確保を各家庭ですることが難しくなっているという現状を受けて、地域に法被の寄贈依頼をしていきたい。

④協働センターと連携を図り、広報や募集の仕方を工夫することで地域の活動に中学生が多く参加できるような手立てを考えていきたい。

協議の結果、全員異議なく、これを承認した。

(5) 今年度の学校運営協議会の自己評価

議長より、自己評価表にある各評価項目について委員に対して意見を求めた。それらの意見をまとめる形で、積志中学校運営協議会の総意として以下のような自己評価を行った。

○評価項目1：学校運営の基本方針について熟議することができたか

校長から学校運営の基本方針の説明を受け、それに対して「3つの充実（授業、集団活動、体験活動）」「学校スローガン」「部活動の今後の在り方」「ICT教育」などについて多くの意見や質問が委員から出された。それらに対して、出された意見を改善策として盛り込んでいくという校長からの回答を受け、学校運営の基本方針が承認された。

以上のことから、学校運営協議会として、学校運営の基本方針について十分な熟議をおこなうことができたと考える。

○評価項目2：学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか

本年度は、学校運営協議会として今後の活動、取組の方向性を定めることを大きな目標として設定した。全校生徒、全家庭を対象として行ったアンケート調査の結果を受けて、生徒、保護者、地域住民、教職員の代表者で意見交換を行う「積志中の未来を考える会」を開催した。その中で出された意見を基にしながら、次年度の活動の方向性を定めることができた。

以上のことから、学校運営協議会として、学校運営に資する活動について、十分な熟議を行うことができたと考える。

○評価項目3：今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

本年度は、学校や地域の実態把握と今後の活動の方向性を定めることに重点を置いたが、その点においては、目標をおおむね達成することができたと捉えている。この1年間の活動を受けて、次年度は「学習支援」「部活動を指導できる人材の発掘」「学校行事への支援」「地域のボランティア活動の活性化」といった4点について重点的に取り組んでいきたい。それらを着実に具現化していけるような土台を地域につくることを目指して、地域への積極的な情報発信、学校と地域がより密接に連携するための体制づくりをしていきたいと考える。

協議の結果、全員異議なく、これを承認した。

(6) その他報告

○いじめ防止等のための基本的な方針について

岩永教諭から積志中の「いじめ防止等のための基本的な方針」について説明があり、それに対して委員からは以下の発言があった。

・いじめ、不登校など、今の学校にはいろいろな課題があると思う。学校の先生にいじめの相談をしても、対応してもらえなかったという声を以前聞いたことがあるが、積志中はいじめがあった場合、どのように対応しているのかを知りたい。（今宿委員）

→アンケート調査を年3回実施しているが、それだけではなく日常の生徒の様子から実態の把握に努めている。相談があった場合には、すぐに情報収集を行い、事実確認を丁寧に行っている。そして、その内容の大小を問わず、全て校長や教頭などと情報共有し、学級担任だけでなく、学年体制、学校体制で解決に向けた対応をしている。（岩永教諭）

→授業中や休み時間などの様子で少しでも兆候があれば、声掛けをする。状況によっては、養護教諭やスクールカウンセラーなどの力を借りながら対応していくこともある。家庭とも連携をとりながら、適切な対応に努めている。(校長)

- ・いじめにおいては、被害者を守るという姿勢をまず大切にしてほしいと感じている。(北委員)

○学校生活のきまりについて

岩永教諭から、学校生活のきまりの改訂を生徒会役員とともに進めている件について、ここまでの経緯や進捗状況の説明があり、それに対して委員からは以下の発言があった。

- ・今の中学生が感じていること、考えていることを、学校としては大事にしてほしいと思う。常識の範囲の中で生徒たちが自ら判断して決断する機会を与えることが生徒の成長につながると思う。また、生徒たちから、卒業式など儀式の時は、靴下は白で統一したほうが良いのではないかという意見が出たのは、本当に素晴らしいことだと思う。(岡本委員)

- ・女子はスラックスでもよいのか(今宿委員)

→制服について性別によって定義することはしていない。スラックスを選択したいという生徒がいれば、学校はそれを尊重する。また、来年度の新入生とその保護者に対しては、学校生活のきまりの改訂を現在進めている最中であるという現状を伝えている。(校長)

○夢育やらまいかCS加算分について

教頭から夢育やらまいかCS加算分について、未来授業、生き方授業の講師謝礼として遣った旨の報告があった。協議の結果、全員異議なく、これを承認した。

その他報告事項等

- ・学校運営協議会委員に対して、学校職員として積志中学校の卒業証書授与式への出席を依頼する旨の連絡があった。
- ・高橋委員から、今年度末をもって学校運営協議会の委員を辞するという旨の報告があった。